

伊豆箱根の旅 2022



2022年4月

旅のチカラ研究所 植木圭二

関西在住の友人たちが関東に遊びに来るといので、私は伊豆箱根の旅を企画した。今回の旅のテーマは“こだわりの宿”、そして“関西人に知ってもらおう伊豆箱根”とした。

■おっさんたちの旅が始まる

ゴールデンウィークも近い日曜日の夕方、私は関西から車で来る3人の友人たちと伊豆のホテルで落ち合った。

その3人とは6年前の106日間の地球一周の船旅で知り合い、船内の居酒屋で毎日飲んでいた同世代のおっさんたちだ。この面々とは下船以来ほぼ年一度くらい一緒に旅をしている。

ヨコさんは船内では水彩画教室に入っていたカメラ好きのヨットマン、ヒデさんは船内では英会話教室に入っていたゴルフ好き、その腕前はプロ級だ。ヨシさんは船内ではフラダンスを習っていた山男、帰国後マッターホルンに登り、日本国内をバイクで旅をしながら山に登っている。あえて説明することもないが、全員お酒大好きの楽しい連中だ。

そしてこの伊豆箱根の旅の後には、メンバーを追加して次の旅へと向かうことになっている。

■名門ホテルに泊まる

本日の宿「大仁ホテル」は長嶋茂雄が現役時代に自主トレで泊まっていた名門ホテルだ。ホテルへの道は長嶋茂雄ロード、館内には長嶋茂雄コーナーもある。関西の面々は「ここで我が阪神タイガースのライバル巨人の長嶋が自主トレしたのか、それなら相当の高級ホテルだったろうね」と言っている。私は「かつてはね、でも今は伊東園だから安く泊まれるよ」と言うが、彼らはキョトンとしている。

大仁ホテルは現在伊東園グループに入っており、2食付き飲み放題1万円以下で泊まれる。伊東園は経営難の温泉宿を安く買い、独自のノウハウで再生して安価に提供するというビジネスモデルを展開しており、東日本を中心に約50の施設がある。残念ながら西日本にはない。それもそのはずで西日本では愉快リゾートという名前で展開している。それゆえ私は彼らに「伊東園は、西日本では愉快リゾートだよ」と説明すると彼ら納得したようだ。

実は、私は先週も別の友人たちとこのホテルに泊まっていた。その時は敷地内にある離れの部屋で、風情があって実に素晴らしかった。その友人たちもあの名門ホテルがこんな値段で泊まることができるのかと驚いていた。長嶋茂雄もこの離れの1つを常宿にしていた。

一緒に泊まったメンバーの中で伊東市に住む友人は気に入ったのですぐに夫婦で泊まりに来て、今度は奥さんがもっと気に入ったのでまた来たいと話しているという。

そして先週もらった1人1000円引きの割引券が今回使えるのがありがたい。



【大仁ホテル外観 手前がホテルの離れ】

今宵の宿泊はその離れではないが、2ベッドの洋室を2つ繋げたようなフォース・ルームになっており、最上階の角部屋で非常に景色が良い。もともこのホテルは小高い山の上にあるので、晴れていれば富士山を背景に長嶋茂雄がトレーニングで登った急峻な城山やその他の伊豆の山々を見渡せて遠い街並みまで見ることができる。関西から来たらまず富士山で歓迎するのが良いと思ってこの部屋を予約したが、残念ながら本日は雨模様で富士山はじめ伊豆の景色は期待できない。

それでも良質な温泉、飲み放題付の伊豆の食材を使ったビュッフェスタイルの夕食を堪能して、再会を祝して否が応でも夜は盛り上がる。話は6年前の地球一周の船旅に及び、そしていつものように電話魔のヒデさんは船旅で知り合った仲間たちに電話を掛けまくっている。

■伊豆半島の付け根、三島

伊豆は現在放送中のNHK大河ドラマ「鎌倉殿の13人」で盛り上がっている。

「三島大社」は伊豆半島の付け根に位置する三島市にあり、伊豆に流された源頼朝は源氏再興を三島大社に祈願して、これが成功したので鎌倉殿から手厚く保護された。その妻の北条政子が奉納したと伝えられる「梅蒔絵手箱及び内容品一具」は国宝だ。

三島大社は格式の高い神社で参拝する拝殿とご神体のある本殿が分かれている。その構成も珍しいが、各々が実に立派な建物になっている。



【三島大社の拝殿（中央、右側から参拝する）と本殿（左奥）】

この建物の建築様式は昨年世界遺産検定 1 級を取得した私にとっては非常に興味深いもので、というのはその試験勉強で神社や寺、教会などの各種建築様式を勉強したからだ。

私が解説するよりも建物の説明看板に書かれている文章をそのまま記しておこう。

「三島大社の本殿は流れ造（棟よりも前方の屋根が後方の屋根よりも長く反っている建築様式）で、切妻屋根（本を半ば開いて伏せたような屋根）、棟には千木、鯉木をつけている。拝殿は入母屋造（上部を切妻屋根として、下部が四隅に棟を降ろしたような屋根を持った建築様式）で、前面には三間の向拝をつけ、正面には千鳥破風と軒唐破風がつく。両殿の間には軒下に納まるように相の間が作られている。この建築の様式は権現造といわれる。全国的に見て拝殿の大きな神社は多いが、本殿の大きさは出雲大社とともに国内最大級であり、高さ 23m、鬼瓦の高さ 4m になっている」

三島大社の近くにある「楽寿園」は私が 2 年前に訪れたことがあり、園内には大きな池がある。その時は、池は富士山の綺麗な湧水によって満たされており、こんなに大量の水が湧き出ているのかと富士山の大きさを感じた。さらに池の畔には明治時代に皇族の別邸として建てられた「楽寿館」という数奇屋造の館が建っており、池と一体化して抜群の景観を作っていた。

私は富士山の湧き水の池と楽寿館のコラボレーションを見て欲しいと今回のプランに盛り込んだが、残念ながら本日の池の水位はマイナス 63cm ということで完全に干上がっている。受付のお姉さんに聞くと、池は毎年 2 月から 4 月くらいに水位がマイナスになるというから明らかに私の企画ミスだ。富士山の雪解け水は暖かくなってから染み出て来るのだろうか。



【楽寿館と池 2年前の8月】



【楽寿館と池 今回】

実は富士山の湧き水はこの池だけでなく三島市内にたくさんある。綺麗な水なので、鰻を数日間泳がせておくと鰻特有の泥臭さが抜けるということで、三島は美味しい鰻が食べられると有名になった。そのため市内には鰻屋がたくさんある。

早速私たちは鰻屋に入り三島の鰻を堪能する。ご存知のように昔から関東では鰻を背開きにして一度蒸してから焼いていく。それは武家文化の東国では切腹を連想させる腹開きを嫌ってのことだ。一方西国は腹開きで蒸さずにひたすらタレを付けて焼いていくので、東と西では鰻の味も食感も微妙に違う。そこで気になるのは関西組の評価だが、柔らかい食感が好評だったようで満足したようだ。

「背に腹は代えられない」という諺をふと思い出した。切迫した状況では背中より内臓のある腹を守る方が優先するという意味だが、鰻の気持ちになって、今ここで理解できた。

■伊豆の真ん中、修善寺

伊豆の真ん中と言えば修善寺で、修善寺温泉として有名だが、実は修善寺という立派な寺があって、その寺を中心に温泉街が広がっている。

私たちはまず修善寺を参拝する。ヨコさんが手を清めようと手水に手を出すと、何と温泉だ。「大師の湯」と書かれており、近くには温泉成分表まで掲示してある。そこには湧出温度60℃、pH8.6、単純泉と書かれている。温泉は自然湧出で無料かもしれないが、温泉成分表は発行に10万円、10年毎に更新しないといけない。何と気前のいい寺なのか。

それにしても成分表の価格などどうでもいい知識だが、昨年私が温泉ソムリエの資格を取った時の講習会で得たもので、これを聞いたメンバーは「へえー10万円もするのか」と驚いていた。



【修善寺の境内と本堂】



【温泉の手水 上に「大師の湯」の看板】

■伊豆の東、大室山

さらに伊豆と言えば大室山が有名だ。標高 580m の山で、すり鉢を逆さにしたような形状をしており、低い緑の草に覆われた独特な風貌をしている。大室山は伊豆半島の東の伊東市にある。私はこの時初めて“伊豆半島の東”で“伊東”なのかと、知った。

源頼朝が伊豆へ流され、この地域の豪族の伊東祐親がその監視役だった。その祐親が京に上っている間に頼朝と祐親の娘に男の子が生まれ、祐親が戻ってその事を知り激怒してその子を殺害した。その 5 年後に頼朝は挙兵して鎌倉幕府を開いたのは周知のことだ。

私はこの伊東祐親の伊東氏が伊東という地名の由来かと思っていたが、その逆で伊豆の東を治めていたから伊東氏で、だから伊藤ではなく伊東なのか。



【大室山全景 伊東市の公式 HP より】



【大室山のリフト】

大室山には以前は歩いても登れたが、現在は植物保護のためにリフトによる登頂しか許されていない。私たちは早速リフトに乗り込み、わずか 5 分で登頂を果たす。そして頂上はお鉢回りができるようになっており約 1km の道のりを 15 分程かけて歩く。お鉢の底は平らになっていて神社とアーチェリーの練習場がある。

私たちがお鉢回りをしていると犬を連れた人たちに意外なほど多く出会う。ヒデさんは出会う全ての犬に挨拶している。そしてヨコさんが飼い主に向かって「犬のリフト代は、いくらですか？」と聞くと、犬がワンと答えてくれた。

■世界遺産の韮山反射炉

伊豆の国市の「韮山反射炉」に立ち寄る。ここは「明治日本の産業革命遺産」として 2015 年に世界遺産に登録された。その文化的価値を知るには入場料を払って隣接する展示館を見学することがお勧めだが、今回は世界遺産オタクの私とその内容を彼らに説明し入館を省いた。

嬉しいことに入館せずとも無料駐車場に車を停めて、そこから外観を写真に収めることができる。



【韮山反射炉 無料駐車場から撮影】

その説明した内容を書いておこう。

反射炉とは鉄を溶かし大砲を作るための溶解炉で、葦山反射炉は江戸時代末期に葦山代官の江川英龍により、品川の台場に設置する大砲を製造するために建てられた。当時の人々はオランダ語の書物を読み解き、試行錯誤の末に何とか反射炉を作り上げた。試行錯誤だったためか作られた大砲 50 砲のうち 36 砲が不良品だった。それでも実際に大砲を製造した反射炉が国内で唯一現存するのが葦山反射炉だけなので世界遺産に登録された。

■一碧湖の湖畔の宿

今宵は伊東市にある一碧湖の畔にある「伊豆一碧湖レイクサイドパレス」に泊まる。

この宿は 2 つの和室、ツインベッドの洋室、テーブルと椅子のある広いリビング・ダイニングの 3LDK のコンドミニアムで、大人数で泊まるにはもってこいの宿になっている。食器の他に炊飯器など自炊もできる設備がそろっているが、今回は 2 食付きで神奈川県民限定という安いプランがあったのでそれを予約した。

神奈川県民限定という言葉が気になって、私は電話で「代表者の私は神奈川県民ですが、他は必ずしもそうではないですが、大丈夫ですか？」と聞くと、電話口の対応は「私どもはそこまで確認できません」と言う。公的な県民割引ではなく、宿が独自にやっているプランなので、大人の対応をしてくれるのだろう。しかしそれならば神奈川県民限定にするのも変な話だが、お客がこの“〇〇限定”という文言に弱いことを宿は知っているのだろう。

食事は敷地内にある管理棟の洒落たレストランで食べる。料理は必要にして充分で、この内容で 2 食付き 6 千円台は文句の付けようもない。風呂は温泉で、温泉棟に入りに行くという方式をとっており、そこにはコインランドリーもあるから合宿などに向いている。



【リビングルームで乾杯】



【温泉棟の内部】

翌朝は一碧湖の周りを散策して、朝風呂を堪能する。小鳥のさえずりと新緑がまぶしく、実に気持ち良い朝を迎えられる。

■箱根の関所

伊豆から箱根峠を越えて箱根に行く。そこで待っていたのは箱根駅伝の往路ゴールと復路スタートの標識で、皆はお決まりのゴールシーンのポーズを決めて写真を撮る。

その近くにある箱根の関所跡にやって来る。

入口で入場券を売っており、会計担当のヨコさんは入場券を買おうとしている。私は慌てて「入場券はいらないよ、江戸時代じゃないから通行料は無料だよ」と制止する。

実はこの関所には誰を連れてきても同じように入場券を買おうとする。入場券は昔の番所など関所の付帯設備を再現した施設や資料館の見学のために、単に関所を通行するだけならばお金はいらない。実に間違いし易い。いや、それを狙っているのだろう。



【箱根駅伝 往路のゴール】



【箱根の関所跡 左が入場券販売所】

関所を通過して私が関西組に「ここからが関東だよ」と言うと、みんな何だかわからない顔をしている。私はすかさず「箱根の関の東側、江戸に近い方を“関の東”で関東と呼ばれる所以だよ」と付け足すと、みんなは合点がいったようだ。そして誰かが「じゃあ、この関の西側が関西なの？」と聞いてくる。私は「関西は関ヶ原の関の西側が関西というみたいだよ」と答える。するとまた誰かが「その間は、関西でも関東でもない、・・・中部か、なるほどね」と一件落着する。

■箱根峠を越える若者たち

関所を抜けた所でお揃いの帽子をかぶって列を組んでウォーキングをしてくる 20 人くらいの若者の集団と遭遇する。男女混合の集団で、実は箱根の峠を越えた辺りから同じような集団を何組も見してきたが、私たちは車に乗っているのだから声を掛けずにいた。

集団の先頭にいる若者に「どういう団体なの？」私が聞くと、その若者が「箱根の峠越えのイベントで小田原から三島まで歩いています」と答える。

私が「三島まで結構あるでしょう？」と聞き返すと、別の若者が「32km あって、6時半までに三島に着かないといけないのですよ」と答える。

さらに私が「それは滝廉太郎の箱根八里そのものだね」と聞く。同じ若者が「はい、歌のように“箱根の山は天下の嶮”の八里 32km を体験します」と頼もしく答えてくれる。

今度はヨシさんが「学生ですか？」と聞くと、「社会人です」と返ってくる。私とヨシさんは顔を見合わせて「社会人が、平日にそんなことやっているのか」と驚くばかりだ。

私たちは彼らに「頑張っ！」と声を掛けて別れた。

それにしても人数が多かった。10 組くらいの集団と行き会ったから、全部で 200 人くらい参加しており、全員で峠越えに挑戦している。私は若者たちの後ろ姿を見て何故か嬉しくなった。みんな生き活きとして良い顔をしていたのが印象的だった。

■かつての箱根離宮

箱根には著名人の別荘がたくさんあり、天皇家の別荘もここ箱根にあった。ただし天皇家の場合は別荘と呼ばず離宮と呼ぶ。箱根離宮は和と洋の建物が明治初期の1886年に建てられたが、1930年の北伊豆大地震で倒壊したので、それを契機に神奈川県に管理が移り、現在は箱根恩賜公園になった。そして昔の洋の建物を模して現在は2階建ての洋館が建っている。



【かつての箱根離宮 和風建築と洋風建築】



【現在の恩賜公園の洋館】

この公園は芦ノ湖の湖岸に突き出た半島全体が敷地になっており、半島全体が小高い山で、その頂上に洋館がある。2階のバルコニーからの眺めは最高で、晴れていれば目の前には芦ノ湖が広がり、箱根の外輪山の向こうに富士山を見ることができる。残念ながら本日の富士山は雲に隠れて見えない。それでも関西組は離宮の持つ独特の雰囲気満足しているようだ。

公園と洋館を全て見ても1時間ほどで歩いて回れる。全て無料開放されており、県立なのでメンテナンスも良い。あまり観光地として紹介されていないので観光客は少なく、いわゆる穴場だ。

■箱根塔ノ沢温泉の宿

今宵の宿は箱根塔ノ沢温泉の「一の湯本館」を予約してある。木造4階建てで数寄屋造の風情ある建物で、私は何回かここに泊まりに来たことがある。

この宿は箱根地域に7つの宿を運営している一の湯グループの本館で、グループのポリシーは「箱根で平日1万円以下の宿」を公言しており、庶民にとってはありがたい。そのため外国人にも大人気だが、コロナ禍なので今回は労せず予約できた。

風情ある建物なので、玄関もロビーもちょっと洒落た雰囲気、受付を済ませた私たちは客室がある2階、3階に木の階段をギシギシと音をたてて登っていく。客室の入口には軒先が廊下に出ており、とても良い雰囲気をかもし出している。

近くを流れる早川が宿の周りをコの字に曲がって流れているのでほとんどの客室から溪流のせせらぎを感じることができる。

関西組はこの江戸風情のある宿に喜んでいるが、その中でも特に京都に住んでいるヨシさんは京文化とはまた一味違う江戸文化のこの雰囲気がとても気に入ったようだ。



【一の湯本館の正面入口】



【廊下 泊まった部屋】

塔ノ沢温泉は江戸時代初期に発見されたもので、この宿の温泉にも江戸時代を感じる。

それは風呂の洗い場だ。通常の洗い場はお湯や水が出るカランがあるが、この洗い場にはそのカランがない。その代わりに温泉が流れている温泉槽があり、そこから桶で湯を汲んで、使うようになっている。昔は蛇口というものがなかったので、このような温泉槽になったのだろう。まさしく江戸時代だが、このような温泉槽は湯量が豊富でないといけない。



【風呂の洗い場 カランはなく温泉槽がある】

温泉の湧出温度は47℃、pH8.5というからアルカリ泉で、源泉はこの近くにある。ということは、この温泉は“鮮度”が良いはずだ。

温泉の鮮度とは、一体何だろう。これも私が温泉ソムリエの資格を取る時に教えてもらったことだ。

金属が酸化して錆びるように人間の皮膚も酸化、つまり老化していく。酸化とは逆の還元ならば、老化を抑制してくれる。温泉は地中深く生成されるために酸素が不足した還元状態にあり、その状態の温泉に浸かれば老化抑制、若返り効果が期待できる。これが温泉の鮮度で、地上に出て大気に触れると酸化が始まり徐々に鮮度が落ちていく。

鮮度が落ちる要因は大気に触れる時間、加熱や循環処理などで、鮮度を保つには源泉から近く掛け流し、湧出温度が入浴温度に近く湯量豊富というのが条件になる。

鮮度が良く、かつ情緒満点の温泉に浸かり旅の疲れを癒す。関西組はもちろん、私も満足この上ない状態で夕食会場に向かう。

4階の夕食会場に入って、その雰囲気に関西組は驚いている。理由は江戸時代の風呂や私たちの3階の和屋とは全く異なるからで、床張りのレストランは2方が外に面して採光が良好で明るく、江戸時代というよりも大正ロマン、洋風文化を取り入れたモダンな造りになっている。

創作料理と称する食事の内容は、「豚肉のしゃぶしゃぶ兼焼肉」をメインに、いくつかの小鉢が並んでいる。しゃぶしゃぶ兼焼肉という訳の分からない表現を使った理由はその鍋が実にユニークな形状で、お湯を張ったしゃぶしゃぶ鍋の真ん中に丸い小さな焼肉用プレートが突き出ているという特異な形をしている。私はもちろん他のメンバーも初めて見るもので、これには一同「これは凄い！」と声を上げる。



【レストラン全景】



【しゃぶしゃぶ兼焼肉の鍋】

スタッフの女性から「飲み物はどうしますか？」と聞かれ、少し躊躇していると「飲み放題が1200円でありますよ」と言ってきた。彼女は我々の顔を見てすぐに酒飲みということを察したようだ。すかさずヨコさんが「それをお願いします」と言う。

彼女は「注文はこちらからお願いします」と言って1枚の紙を置いていった。その紙にはスマホで飲み物を注文する方法が書かれていた。スタッフやお客は外国人が多く、それも多国籍化しているから注文をスムーズにそして確実にするためのものだ。私にとっては初めての体験になるが、そんなに難しいものではなく、QRコードを読み取ってWEBにアクセスすると注文メニューが出てくる仕組みなので、アプリをインストールする必要もない。多言語対応しており写真付きなので非常に分かり易い。

今回の宿泊は16時以降チェックインという条件だけで3000円くらい安くなるプランで、私も関西組もみなが不思議に思っていた。チェックアウトの時にその理由を聞いてみると、15時頃にお客さんが集中するのでご迷惑をかけるからという答えだった。にわかには信じ難い理由だが、とにかくこんなありがたいプランを使わない手はない。

■ ゴルフ

今回の旅で私は 2 カ所でゴルフをする計画を立てた。ただしヨシさんはゴルフをしないので、私がいくつかアドバイスして自由行動を楽しむが、これについては彼におまかせだ。

まずは私のホームコースの「伊豆にらやまカントリークラブ」でプレーする。私がゴルフを始めたのが 46 才の時に、その 2 年後に会員権を購入したゴルフ場だ。富士山に向かってティーショットを打つというロケーションなので関西から来たゴルファーは感激するだろうと思っていたが、残念ながら富士山は顔を見せなかった。

もう一カ所はヒデさん、ヨコさんのリクエストで米軍のゴルフ場でプレーすることにした。米軍は福利厚生のために日本国内の米軍基地のほとんどにゴルフ場があるが、関西には米軍基地がないので特に興味を持ったのだろう。

私のゴルフ仲間が厚木基地の自衛隊関係者で、彼にアテンドしてもらって厚木基地内のゴルフ場でのプレーが可能になった。その彼の案内で厚木基地の正門に到着する。厚木基地は米軍と海上自衛隊との共用施設ではあるが、基本的には米軍の基地なので入門と出門にはパスポートが必要でセキュリティのチェックが厳しい。

入門すると有名なアメリカ人の銅像が建っている。終戦の直後にこの飛行場に降り立った連合軍総司令官ダグラス・マッカーサーの像だ。



【厚木基地正門を入ったところにあるマッカーサーガーデン】

基地の中に入っていくと退役したいろいろな飛行機が展示されている。その中にはアメリカ海軍の名機 F14 トムキャットもある。この飛行機はトムクルーズ主演の映画「トップガン」でも使われて人気があり、もちろん性能も良いという評判だ。いかにもアメリカ人好みの展示だ。

プレー費は先払いで米ドルでのクレジットカード払いだけになっており、日本人の一般人は 80 ドル、自衛隊関係者は 55 ドル、そして驚くべきことにアメリカ兵は 5 ドルというからとんでもない。日本の思いやり予算がここでも効いているのだと痛感する。

それでも神奈川県内のゴルフ場のプレー費の相場の半額程度なので、日本人ゴルファーにとってはありがたい。そのためだろうかゴルフに来ている人たちは圧倒的に日本人が多い。

コースは日本のゴルフ場ほど良くない。何しろ飛行場にあるのだから基本的には真っ平で、上り下りはほとんどない。その代わりに距離があってグリーンは難しくなっている。私が以前訪れた時は雑草が多くコースやグリーンの手入れもあまり良くなかったが、今回は思っていたよりも綺麗になっているように感じる。

コース内には売店もレストランもない。受付で売っているハンバーガー片手にビールを飲みながら回るというアメリカンスタイルで、それはそれで楽しい。アメリカ兵は迷彩服のままプレーしており、時々飛行機の発着の轟音が聞こえるからやはり軍用施設だ。

ゴルフの達人ヒデさんも、そしてヨコさんも初体験で満足のゴルフになったようだ。

■道志温泉に泊まる

最終日の宿は山梨県の道志温泉の「紅椿の湯」にとっている。神奈川県内ではないが翌日の予定を考えると、ここが最適だった。

この施設は私が時々訪れる日帰り入浴施設だが、宿泊も可能になっており、1泊朝食付で 5800 円と安い。いわゆるスーパー銭湯風の施設なので夕食は閉館 1 時間前まで営業している食事処で食券を購入して食べるようになっている。本日はゴルフで、それも米軍のゴルフ場なので終了時間が分からないこともあって夕食の時間を決めなくても良い宿を選んだ。



【紅椿の湯 外観】



【紅椿の湯 食事処】

夕方到着した私たちは直ぐに大浴場に行って温泉に浸かる。ここの湯は私にとって好みの湯で、泉質も良くてサウナもあって、何よりも道志川のせせらぎを聞きながら入る露天風呂は実に気持ち良い。

露天風呂でゴルフ談議をしてから、その疲れをとって食事処にやって来た。

食事処には「飲食物の持ち込み禁止」と書かれているが、逆に宿泊する部屋に持って行っていいかと聞くと、それは問題ないという答えが返ってきた。

これはありがたい。早速私たちは部屋に料理を持ち帰る。

私たちが泊まる部屋は他の宿泊者が泊まる部屋とは独立した配置の14畳の和室で、大きな冷蔵庫もあるので持ち込んだビールを飲みながらゆっくりと夕食をとる。静かな山の中なので夜は静まりかえっているが、私たちの部屋からは笑い声が絶えない。

最後の夜なので今回の旅についても話が及ぶ。

まず“こだわりの宿”については、かつての名門ホテル、家族やグループ向けに最適なコンドミニアム、江戸情緒が残る和風旅館、日帰り入浴施設を兼ねた宿泊施設と、多様な宿にかなり格安価格で泊まることができ、関西組には衝撃的だったようだ。

そして“関西人に知ってもらおう伊豆箱根”は源頼朝の挙兵から始まり江戸、明治、大正、現代の米軍ゴルフ場に至るまで、関西にない関東文化を紹介できたようだ。

「植木さん、宿も観光もゴルフも満足だったよ。今度、関西に来る時は期待してください」と嬉しい言葉を聞く。

翌朝、朝食を食べて次の旅のために茨城県つくば市に向かう。そこでメンバーを追加して茨城県探訪の旅へと続く。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひよい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合っ各項目を5段階で評価し、委員会として評価値を算出する。

今回は参加者全員で各項目を評価してそれぞれ平均値を採用した。

評価の基準は、5は驚き感動、4は普通に良い、3は可もなく不可もない、2は普通に悪い、そして1は失望落胆としている。

「大仁ホテル」は泉質 3.3、風呂 4.0、料理 3.3、コスパ 4.3、サービス 3.0、建物・部屋 4.0、立地環境 4.0、総合点 3.71 になった。

湧出温度 47.1℃、pH8.0、泉質は低張性、弱アルカリ単純泉となっている。

「伊豆一碧湖レイクサイドテラス」は泉質 3.0、風呂 3.0、料理 4.0、コスパ 4.3、サービス 3.0、建物・部屋 4.0、立地環境 3.7、総合点 3.57 になった。

湧出温度 32.8℃、pH8.3、泉質は低張性、カルシウム・ナトリウム-硫酸塩塩化泉となっている。

箱根塔ノ沢温泉「一の湯本館」は泉質 4.7、風呂 4.7、料理 4.0、コスパ 4.3、サービス 3.0、建物・部屋 4.7、立地環境 3.7、総合点 4.14 になった。

湧出温度 47℃、pH8.5、泉質は低張性、アルカリ性単純泉となっている。

道志温泉「紅椿の湯」は泉質 4.3、風呂 4.3、料理 3.0、コスパ 4.7、サービス 3.3、建物・部屋 4.0、立地環境 3.3、総合点 3.86 になった。

湧出温度 13.8℃、pH8.7、泉質は低張性、カルシウム・ナトリウム-硫酸塩泉となっている。

■旅の記録

実施は2022年4月17日(日)～21日(木)の4泊5日、その行程を以下に示す。尚、本文の記述順番と異なる部分もあるが、以下の記録の方が正しい。

- ・1日目 昼過ぎに自宅を出て電車にて、伊豆箱根鉄道の大仁駅で16時44分に関西組と合流
伊東園ホテルズ「大仁ホテル」にチェックイン
- ・2日目 7時30分ホテルを出発、「伊豆にらやまカントリー」でゴルフ、
(ゴルフをしないヨシさんは別行動で付近を観光して宿に向かう)
15時に葦山反射炉の外観見学、16時「一碧湖レイクサイドテラス」にチェックイン
- ・3日目 9時に宿を出発、大室山にリフトで登頂、11時に修善寺温泉街散策と修善寺参拝、
12時に「三島大社」参拝、「寿樂園」散策、13時に三島の「高田屋」で鰻重を食し、
14時に三島スカイウォークに立ち寄るが入場せず、その後芦ノ湖湖畔「箱根の関所跡」、
「箱根恩賜公園」、16時過ぎに箱根塔ノ沢温泉「一の湯本館」チェックイン
- ・4日目 6時30分宿を出発、自宅に一旦立ち寄り、友人と「厚木基地ゴルフ場」入場
昼食は事前に買い込んだ軽食や飲み物をプレーしながら食し、
プレー終了後に道志温泉に移動し17時30分「紅椿の湯」チェックイン
(ゴルフをしないヨシさんは別行動で付近を散策して道志温泉に行く前に合流)
- ・5日目 8時30分に宿を出発し、11時つくば市の研究学園駅到着、そして次の旅が始まる

総費用は1人当たり約6万円、詳細を以下に示す。ゴルフ代も入れてこの金額なので、かなり安く済んだ。ちなみにゴルフ代を除くと約4万3千円になる。

- ・宿泊費用 29957円(1人当たり)
大仁ホテル 8730円(飲み放題2食付き9730円から1000円割引券を使用)
伊豆一碧湖レイクサイドテラス 7155円(夕食時飲み物代375円含む)
塔ノ沢一の湯本館 8272円(飲み放題1200円含む)
紅椿の湯 5800円(朝食付き)
- ・交通費 約3000円
移動距離約230kmのガソリン代、高速道路料金 約5000円の人数割り
大仁までの電車代 1780円
- ・ゴルフ 伊豆にらやまカントリー 昼食付(メンバー6500円、ビジター7850円)
厚木基地ゴルフ場 約10000円(80USドル 為替レート1USドル127円)
- ・その他 約10000円(1人当たり) 飲み物代、駐車場、三島の鰻重並2400円他昼食1回、
紅椿の湯の夕食など